

初めて総会と懇親会に参加しました。

総会に出席することで、新住協の運営状況と当会の雰囲気などを感じることが出来ました。

今回の総会でも発表ありましたが、Q1.0 住宅プロジェクトがQ1.0-X住宅プロジェクトへと進化してよいよ始動します。昨今エネルギーや環境問題が取りざたされている中、住宅産業でも注目されていますが、まだまだユーザーの中には性能を無視してアメニティ、デザインを重視する方も多いと感じます。住宅産業において省エネルギー対策、CO2排出削減対策を進めるならば、国の政策としてQ1.0 住宅を基準とした新たな補助制度や法整備などにより住宅の省エネルギー推進に効果が望めるように思えます。

国内で1年間に建てられる新築住宅、中古住宅のリフォームに省エネルギー対策を施せばCO2の削減やエネルギー消費の削減に効果があると思います。

震災時に無暖房で暮らせたというレポートについては、厳寒時の北海道で震災が起きた事を想定すると我が家では長期間の無暖房では耐えられないと感じるとともに、断熱耐震の改修の重要性、災害時のための準備についても改めて考えておく必要があることを感じました。

内田先生の木造住宅記念講演は、自分が建築に係わってきた経歴と照らし合わせると共感できる時代もあり、ラワン材は幅木や枠材などよく使い懐かしく思いました。戦後から高度成長期までの経験していない時代のお話もあり貴重な講演を敬聴しました。

総会後の懇親会は緊張しながら会場に向かいましたが、気楽に参加することが出来、後半は有志一同の盛り上がりには少々驚きましたが結束力も感じました。

今回の通常総会参加後に感じたことは、セミナーならびにイベントなどに参加することによって新しい技術の習得、情報収集やモチベーションをあげるには重要と感じました。これからの世の中の流れからすると本会も発展することが考えられますので、入会だけの会員の方も積極的に会のセミナーなどに参加されることを望みます。

最後になりましたが、総会開催にあたり関係支部ならびに関係者の尽力に感謝いたします。



懇親会撮影